

愛川町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

アンケート調査集計結果報告書【要約版】

第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定するにあたり、今後の計画策定に必要な住民意向等の基本的な資料を収集するため、アンケート調査を実施しました。

(1) 高齢者等アンケート調査結果の要点

① 調査方法

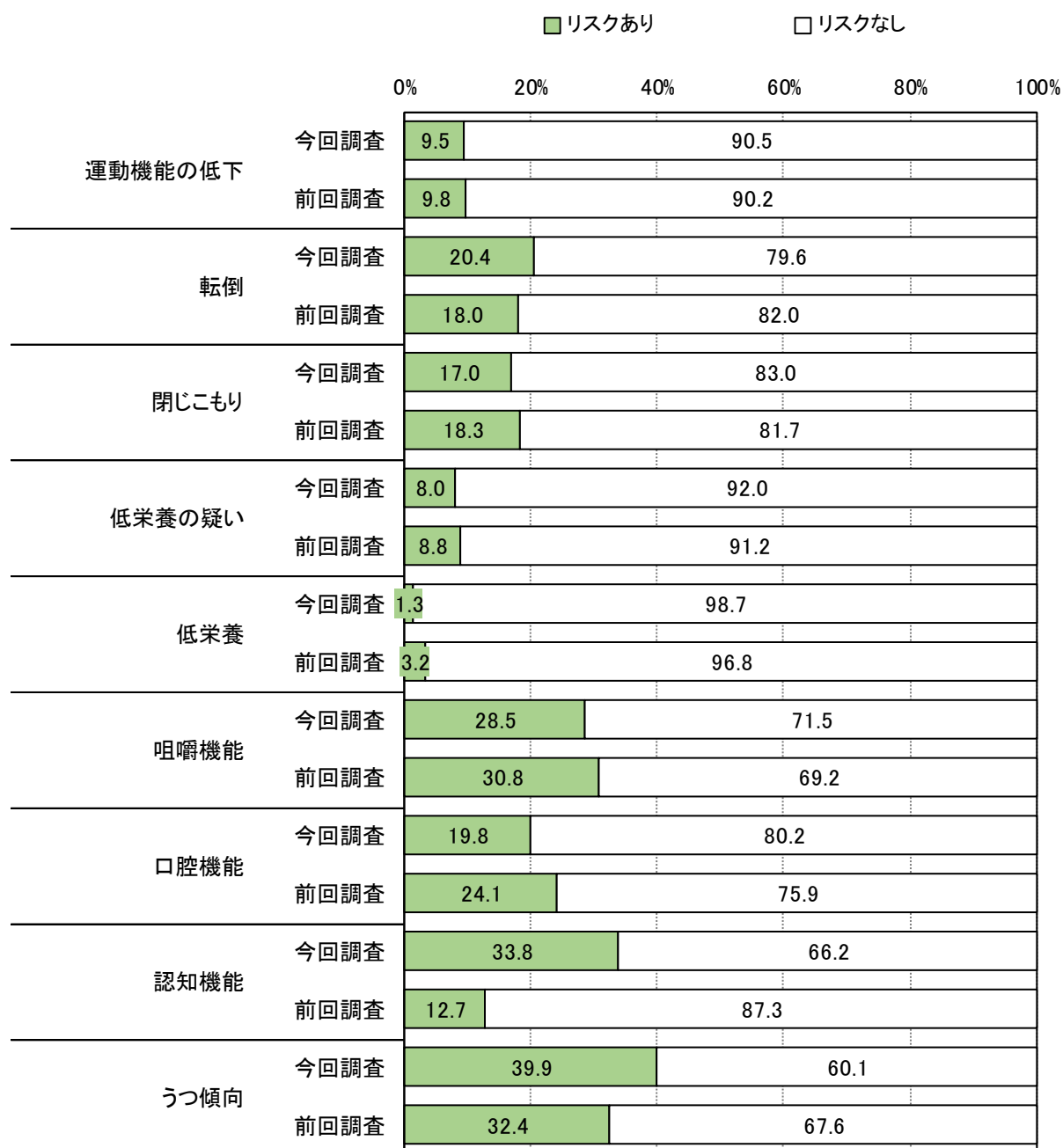
対象区分	調査対象	抽出方法	配布・回収	調査期間
要支援・ 要介護認定者	令和元年12月1日現在、 町内在住の要支援・要介護認定者(施設サービス利用者を除く)	住民基本 台帳から 無作為抽出	郵送による 配布・回収	令和2年 1月17日 ～ 1月31日
65歳以上 一般高齢者	令和元年12月1日現在、 町内在住の65歳以上の 高齢者で保健福祉事業 への参加者を除く			
40～64歳	令和元年12月1日現在、 町内在住の40～64歳で 保健福祉事業への参加 者を除く			

② 回収結果

対象区分	配布数	回収数	回収率
要支援・ 要介護認定者	1,000	638	63.8%
65歳以上 一般高齢者	500	337	67.4%
40～64歳	500	197	39.4%
全体	2,000	1,172	58.6%

【要点1】65歳以上一般高齢者における各種リスク等の判定の結果、有リスク者の割合が高い順に、「うつ傾向」の有リスク者が39.9%、「認知機能」の有リスク者が33.8%、「咀嚼機能」の有リスク者が28.5%などとなっています。特に、上位2位は前回調査から有リスク者割合が上昇しており、「うつ傾向」では7.5ポイント、「認知機能」では21.1ポイント高くなっています。

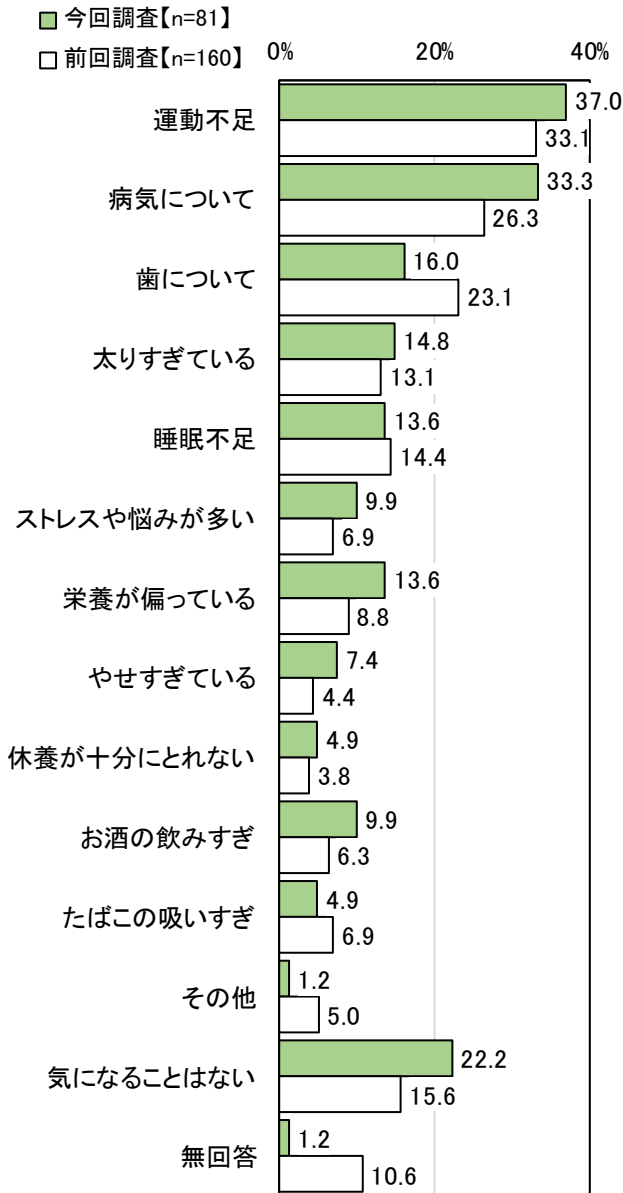
【各種リスク等の判定結果】《65歳以上》



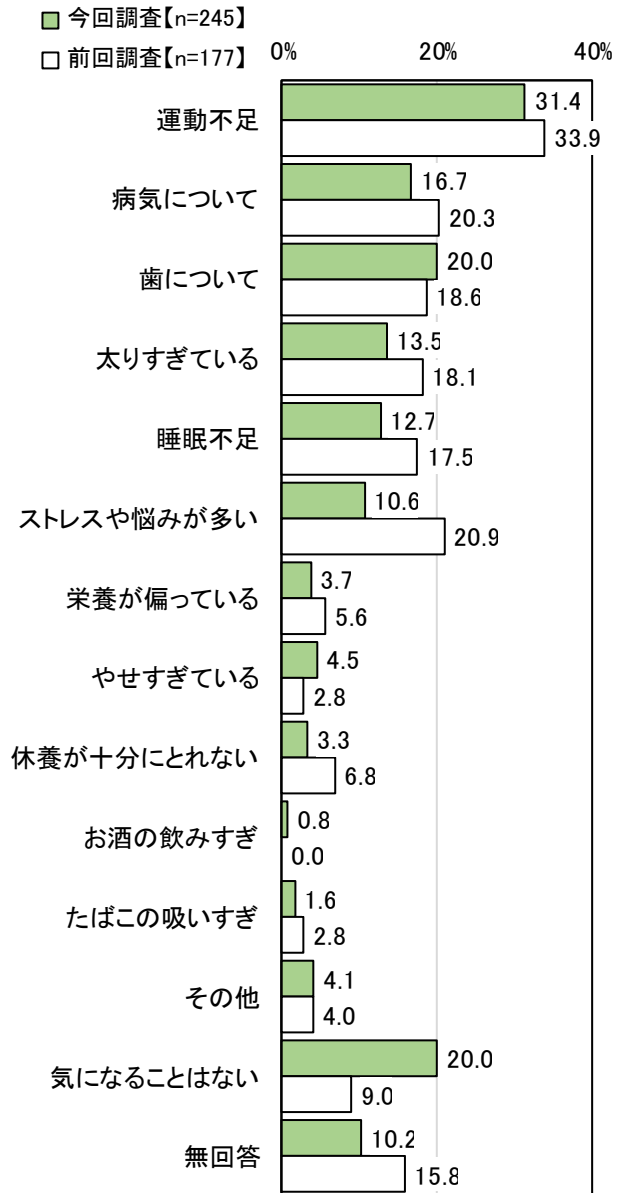
【要点2】65歳以上一般高齢者の日常生活で気になることは、男女ともに「運動不足」が30%以上で最も多くなっています。次いで、男性では「病気について」が33.3%、女性では「歯について」が20.0%となっています。

【日常生活で気になること】《65歳以上》

●男性



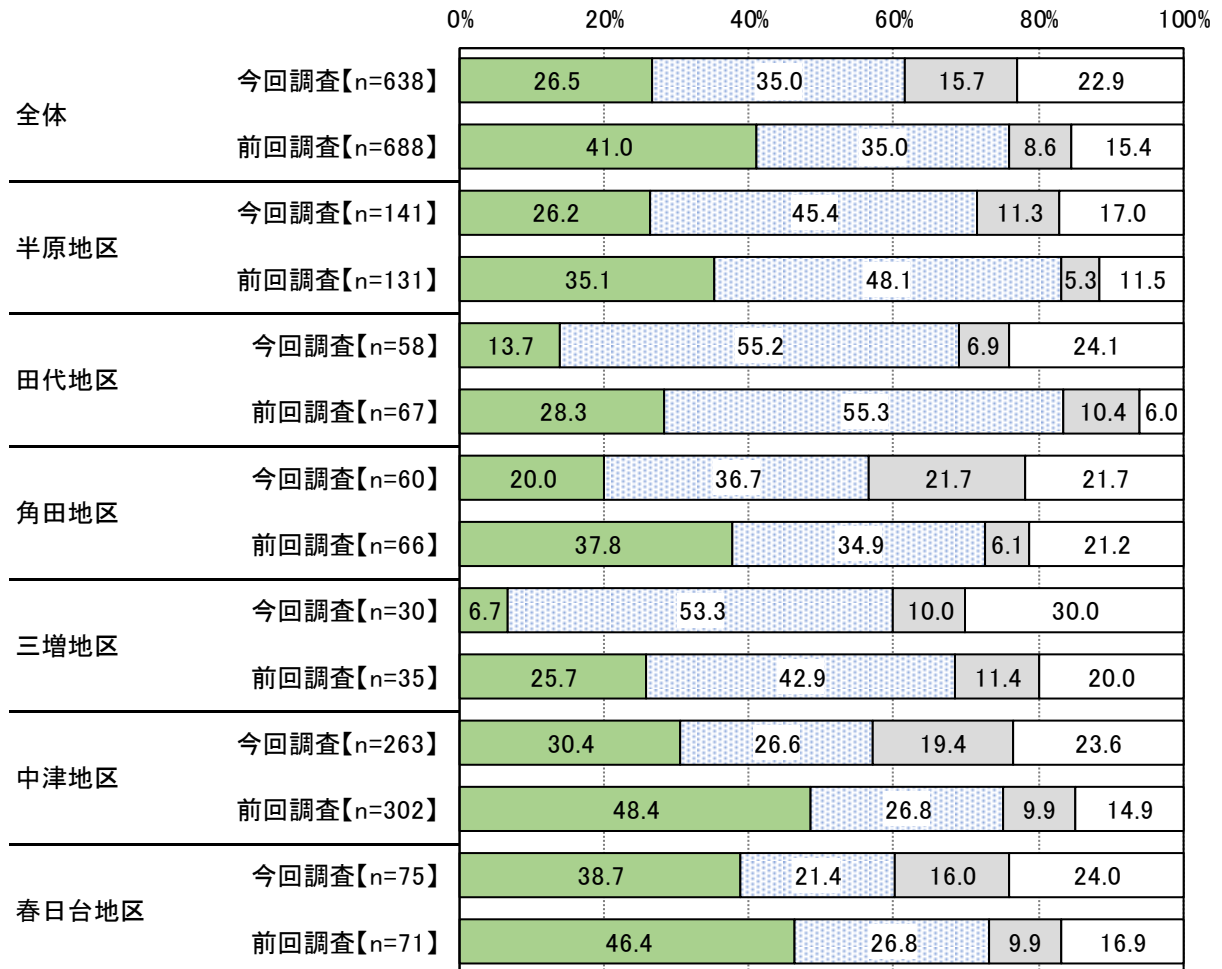
●女性



【要点3】 要支援・要介護認定者の現在の買い物環境については、全体では「便利」と「やや便利」を合わせると26.5%となっており、前回調査から14.5ポイント低下しています。すべての地区で「便利」と「やや便利」を合わせた割合が前回調査から低下しており、特に三増地区では19.0ポイント低下し、6.7%にとどまっています。

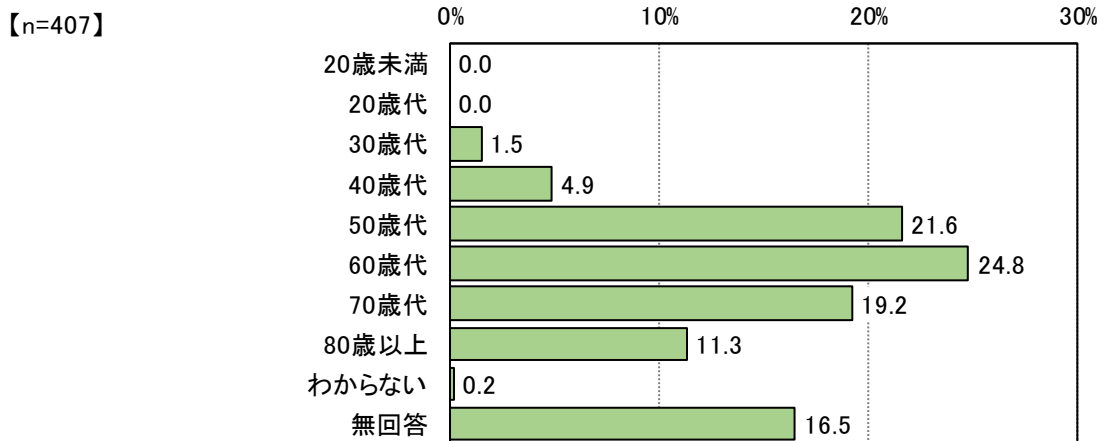
【食料品や日用品について、現在の買い物の環境】《要支援・要介護認定者》

■ 便利(便利+やや便利) ■ 不便(不便+やや不便) □ どちらともいえない □ 無回答

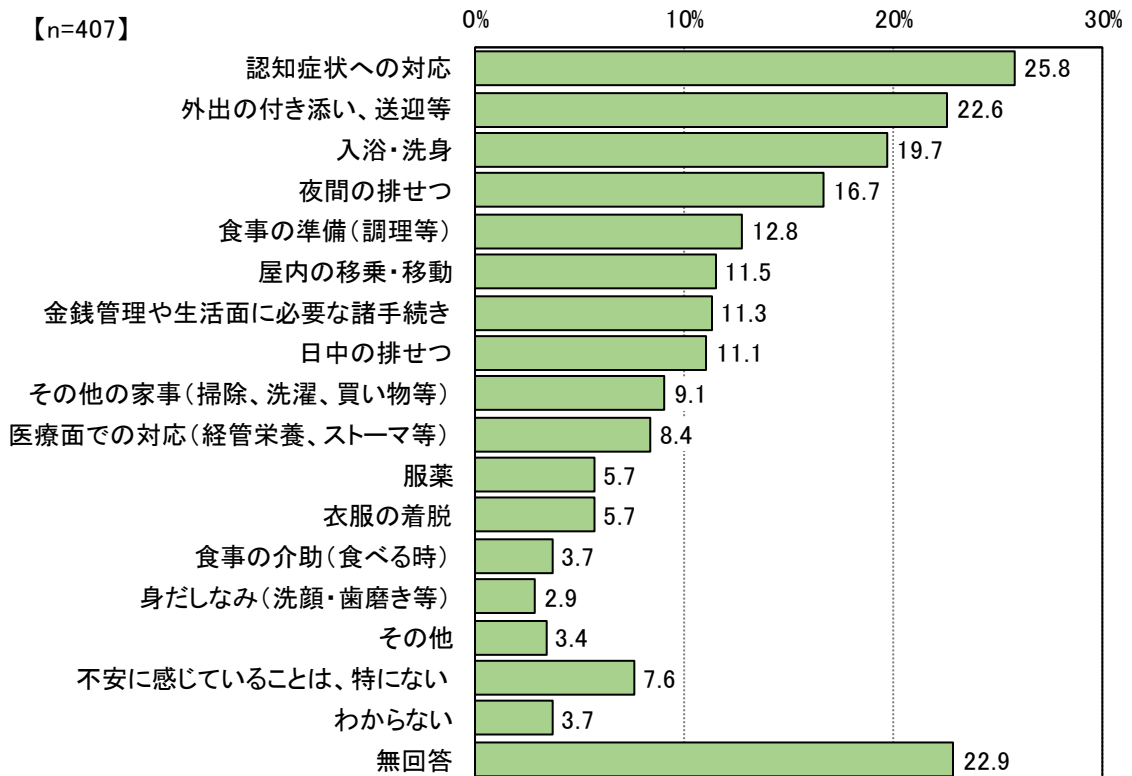


【要点4】 主な介護・介助者の年齢は、60歳代が24.8%で最も多く、以下「50歳代」が21.6%、「70歳代」が19.2%となっており、50歳代以上が大半を占めています。また、主な介護・介助者が不安に感じる介護等は、「認知症状への対応」が25.8%で最も多く、以下「外出の付き添い、送迎等」が22.6%、「入浴・洗身」が19.7%、「夜間の排せつ」が16.7%などとなっています。

【主な介護・介助者の年齢】《要支援・要介護認定者》

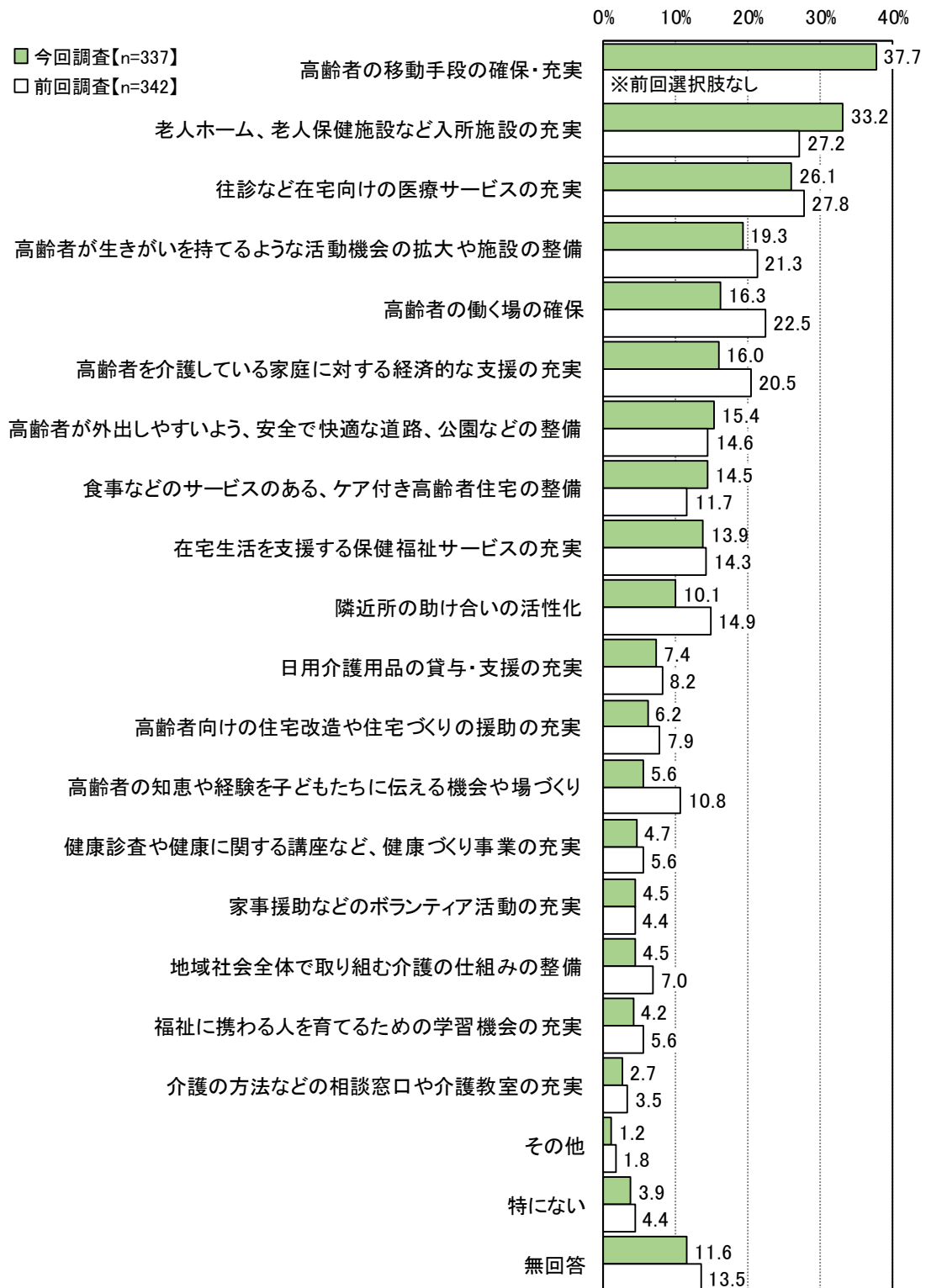


【主な介護・介助者が不安に感じる介護等】《要支援・要介護認定者》



【要点5】65歳以上一般高齢者の、高齢社会への対応として、町が力を入れるべきことは「高齢者の移動手段の確保・充実」が37.7%で最も多く、以下「老人ホーム、老人保健施設などの入所施設の充実」が33.2%、「往診など在宅向けの医療サービスの充実」が26.1%、「高齢者が生きがいを持てるような活動機会の拡大や施設の整備」が19.3%、「高齢者の働く場の確保」が16.3%などとなっています。前回調査と比較すると「老人ホーム、老人保健施設などの入所施設の充実」の割合が上昇しています。

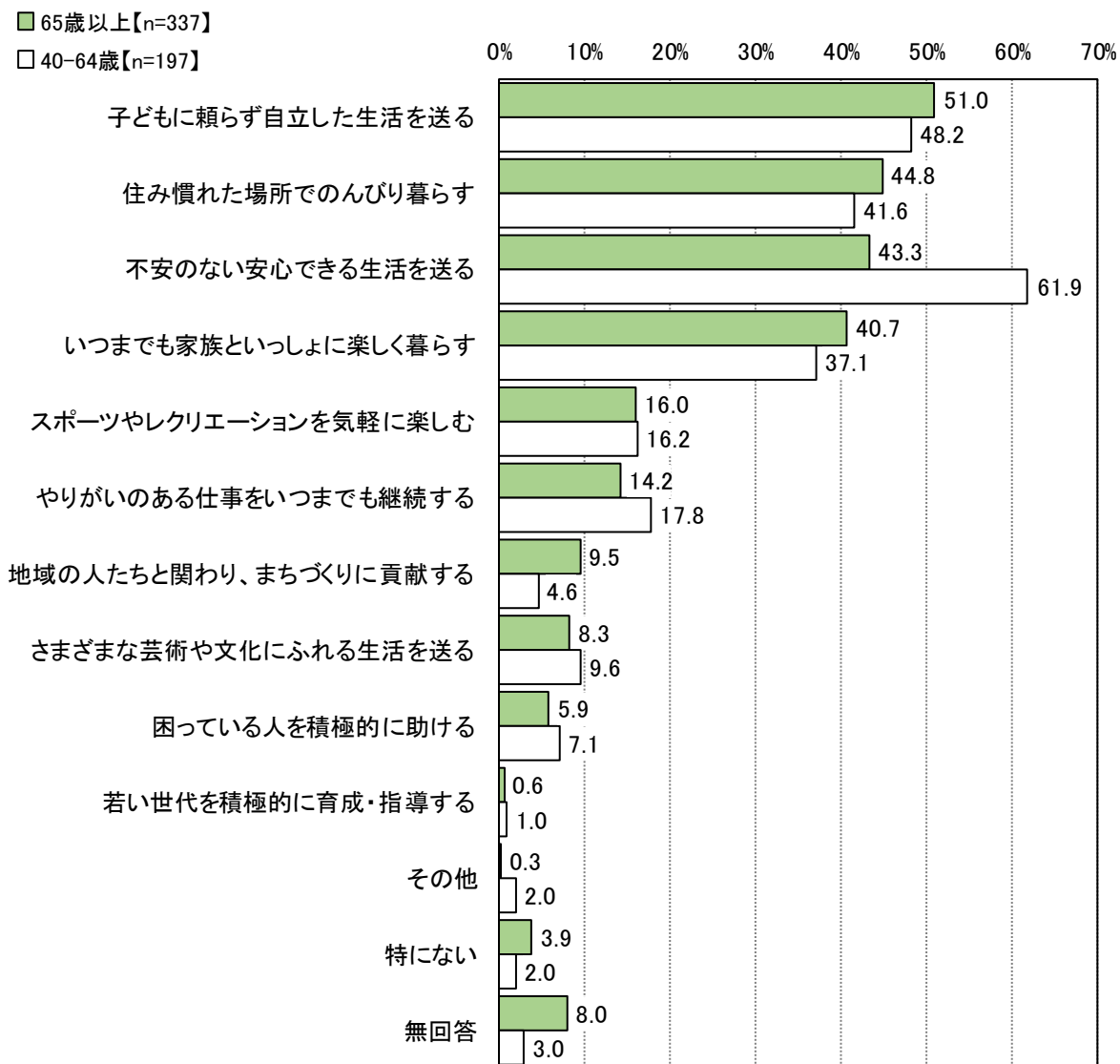
【高齢社会への対応として、町が力を入れるべきこと】《65歳以上》



【要点6】 したいと思う生き方、暮らし方について、65歳以上一般高齢者では、「子どもに頼らず自立した生活を送る」が51.0%で最も多く、以下「住み慣れた場所でのんびり暮らす」が44.8%、「不安のない安心できる生活を送る」が43.3%、「いつまでも家族といっしょに楽しく暮らす」が40.7%などとなっています。

40～64歳においても上位4位は65歳以上一般高齢者と同じ項目となっており、最も多いのは「不安のない安心できる生活を送る」で61.9%となっています。

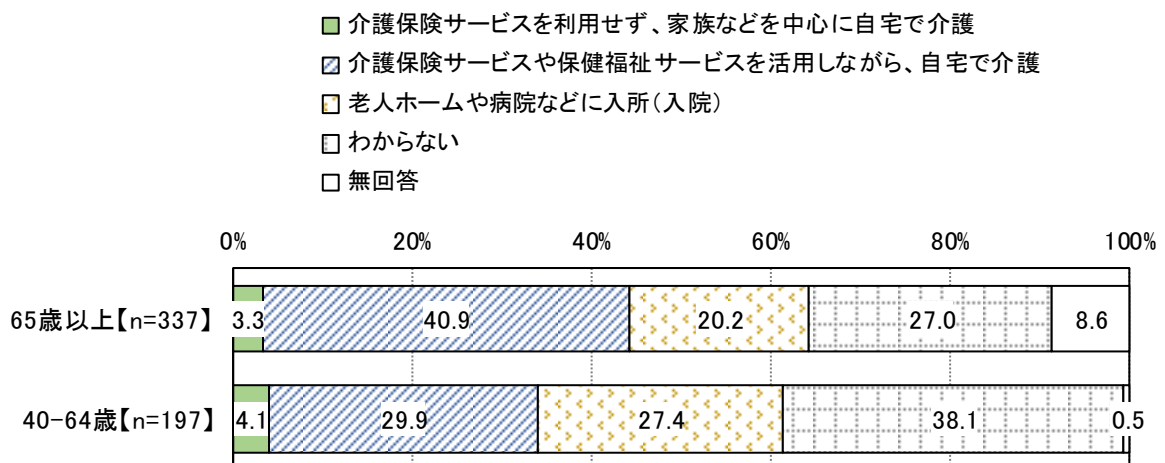
【生き方、暮らし方の希望】《65歳以上・40～64歳》



【要点7】自分に介護が必要になった場合の希望について、65歳以上一般高齢者では「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながら、自宅で介護」が40.9%で最も多く、以下「わからない」が27.0%、「老人ホームや病院などに入所（入院）」が20.2%となっています。

40～64歳では「わからない」が38.1%で最も多いほか、「老人ホームや病院などに入所（入院）」は27.4%で65歳以上一般高齢者より割合が高くなっています。

【今後、もしあなた自身の介護が必要となった場合】《65歳以上・40～64歳》

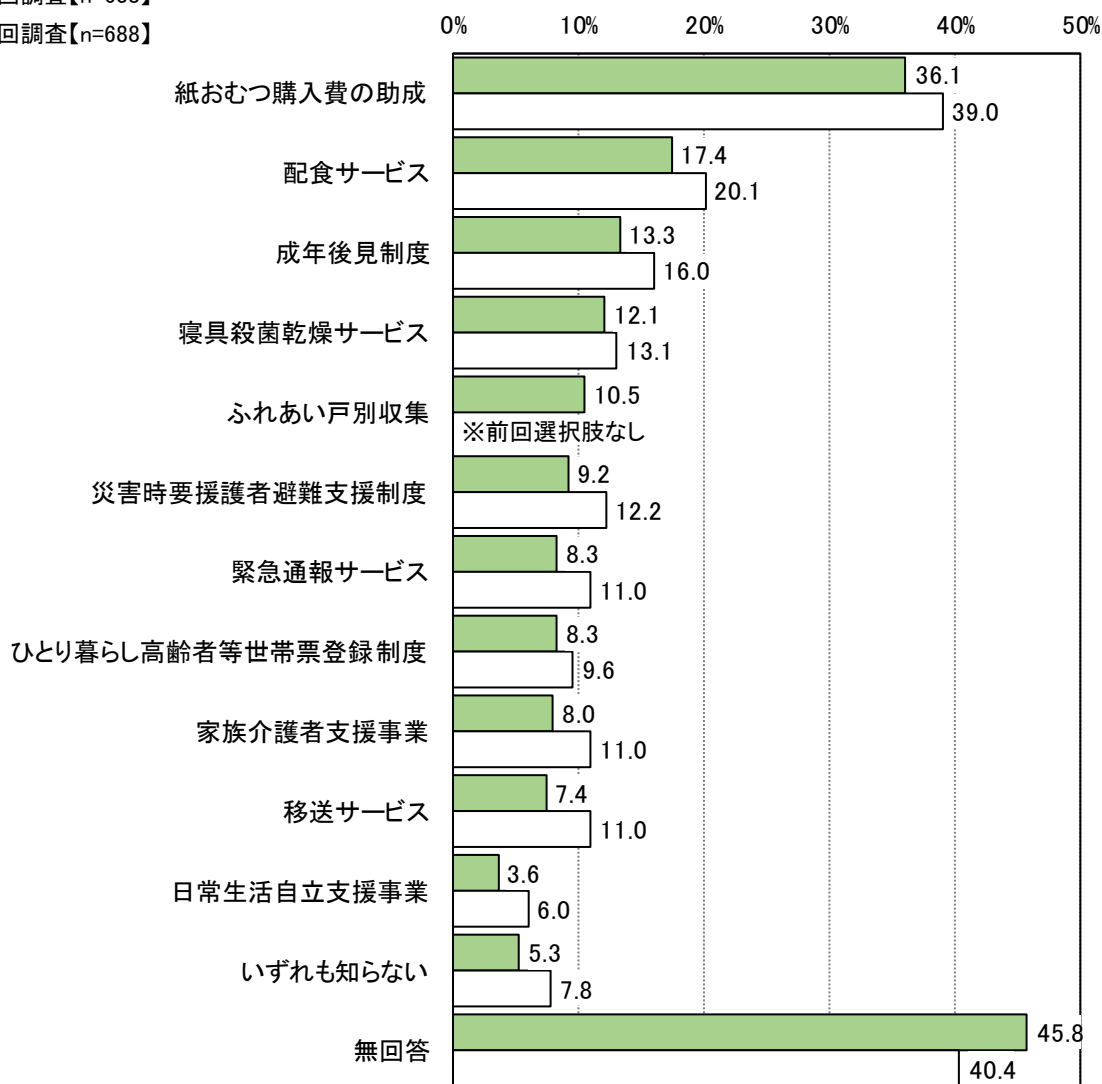


【要点8】要支援・要介護認定者において、保健福祉サービス等で知っているものは、「紙おむつ購入費の助成」が36.1%で最も多く、以下「配食サービス」が17.4%、「成年後見制度」が13.3%、「寝具殺菌乾燥サービス」が12.1%、「ふれあい戸別回収」（新規項目）が10.5%などとなっています。

【町の保健福祉サービス等で知っているもの】《要支援・要介護認定者》

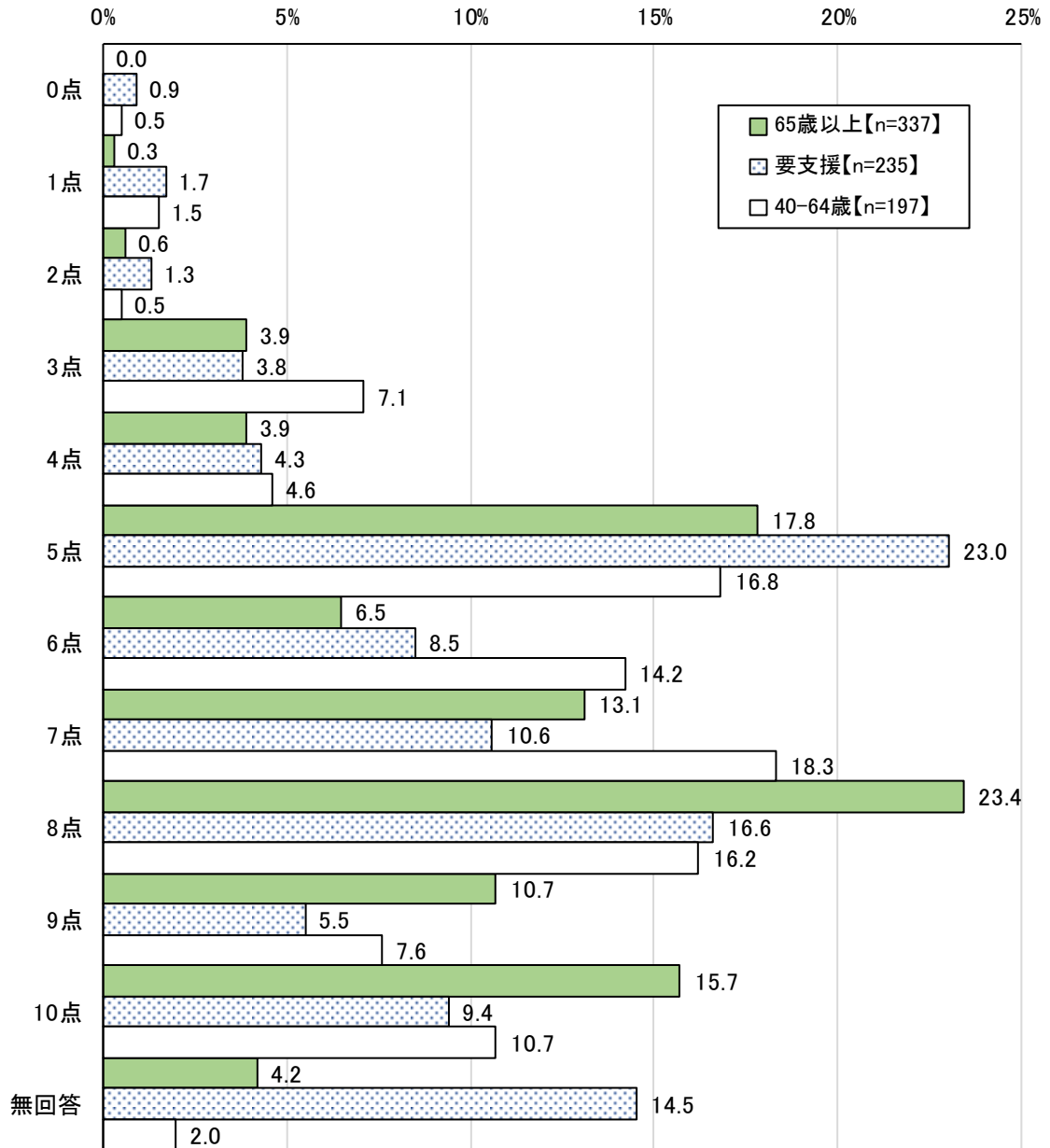
■ 今回調査【n=638】

□ 前回調査【n=688】



【要点9】 幸福感については、すべての対象において5点（中間点）以上が大半を占めており、それぞれの平均点をみると、65歳以上一般高齢者では7.2点、40～64歳では6.6点、要支援認定者では6.4点となっています。

【現在どの程度幸せですか】《65歳以上・要支援認定者・40～64歳》

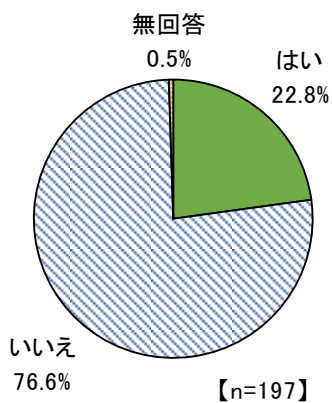


【要点 10】**新規** 40～64 歳において、ダブルケアの状態にあるのは 4 件と限られた回答となっていますが、4 件すべてが現状をダブルケアと認識「している」と回答しています。

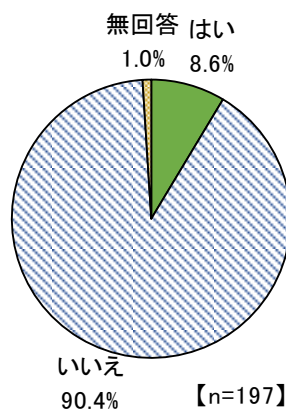
また、ダブルケアの状態にある家庭等に対する行政の支援として、「子育て・介護費用の負担の軽減」が 61.4%で最も多く、以下「介護保険の各種サービスの量的拡充」が 56.9%、「保育施設等の量的充実」が 51.8%、「介護サービスの質的充実」が 47.2%、「保育施設等の質的充実」が 40.6%などとなっています。

【ダブルケアについて】《40～64 歳》

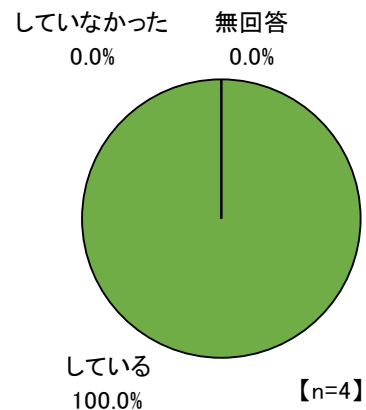
・子育てをしているか



・介護をしているか

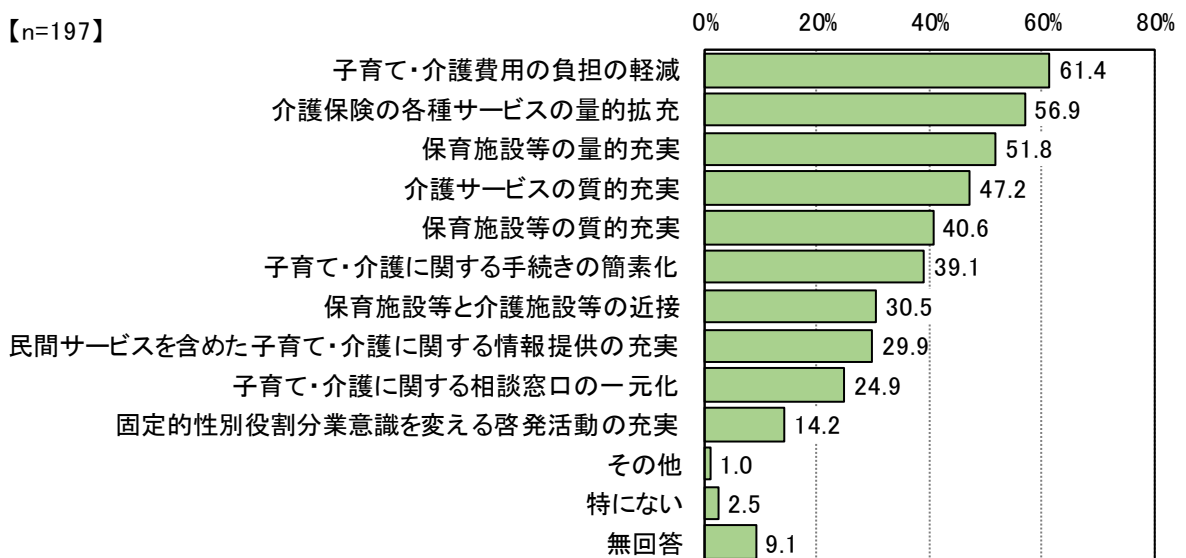


・ダブルケアの認識



・ダブルケアに対する行政の支援

【n=197】



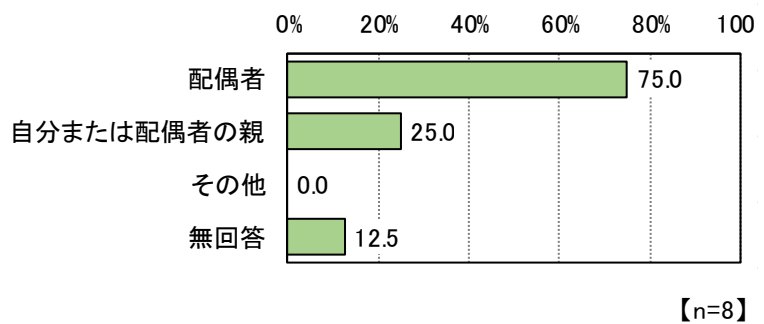
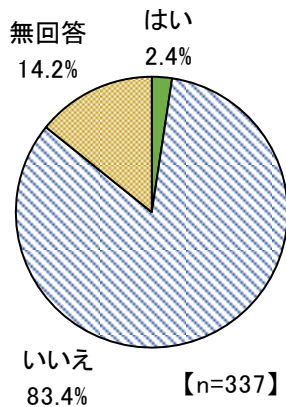
【要点 11】 **新規** 65 歳一般高齢者において、同居者の介護をしているのは、全体の 2.4%となっており、そのうち「配偶者」が 75.0%を占めています。

介護の負担感については、「とても負担を感じている」が 12.5%、「やや負担を感じている」が 37.5%で、合わせると 50.0%となっています。

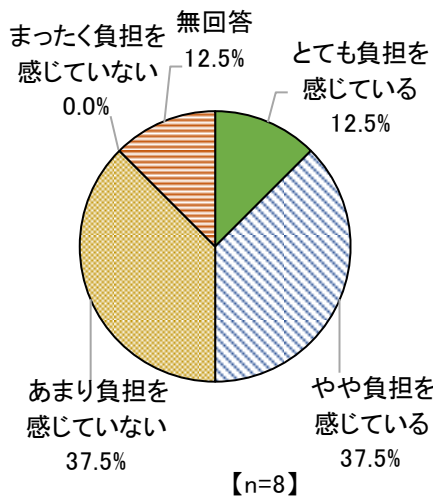
また、施設等への入所・入居の検討状況は「すでに入所・入居申し込みをしている」が 37.5%、「入所・入居を検討している」が 12.5%となっています。

【同居者の介護について】《65 歳以上》

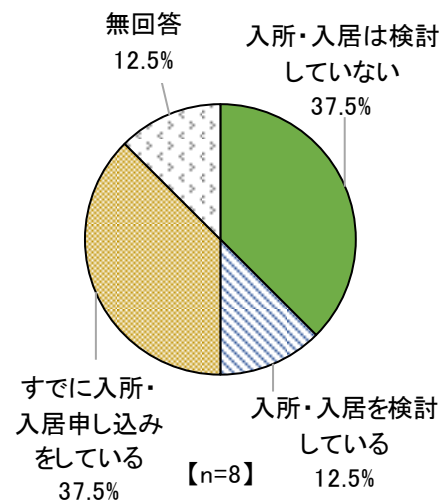
- ・ 普段、同居の家族の介護をしているか
- ・ あなたが介護している方の続柄



- ・ 介護の負担感



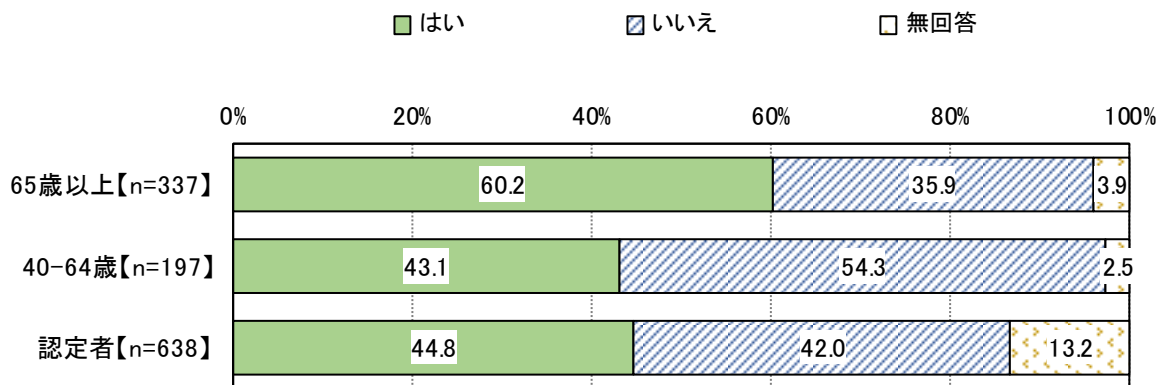
- ・ 施設等への入所・入居の検討状況



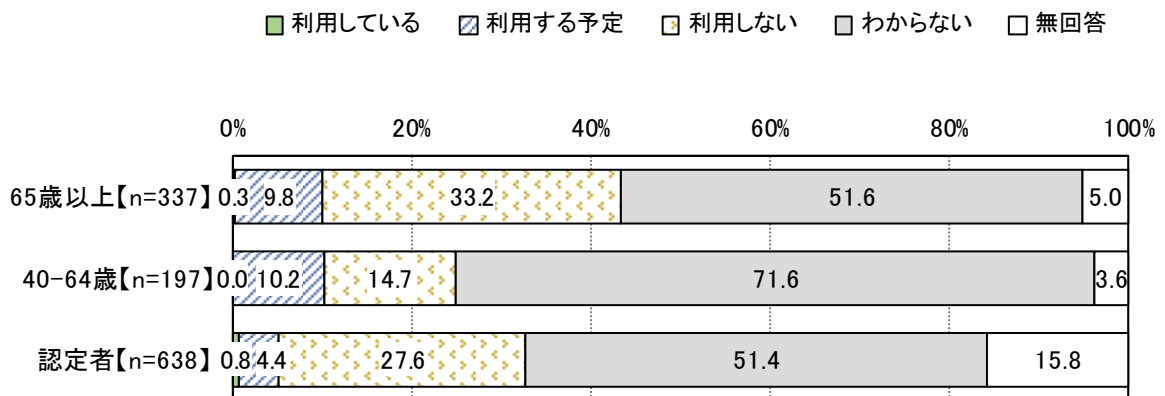
【要点 12】新規 成年後見制度を知っているか尋ねたところ、「はい」と回答したのは、65歳一般高齢者では60.2%で過半数を占めています。40～64歳では43.1%、要支援・要介護認定者では44.8%となっています。
 成年後見制度の利用意向については、すべての調査対象で「わからない」が最も多く、40～64歳では71.6%を占めています。

【同居者の介護について】《65歳以上・認定者・40～64歳》

・成年後見制度の認知度



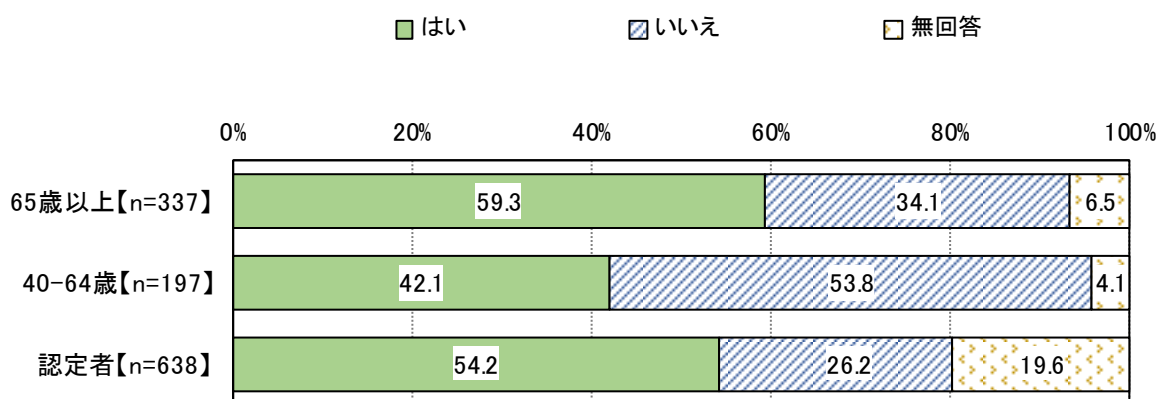
・成年後見制度の利用意向



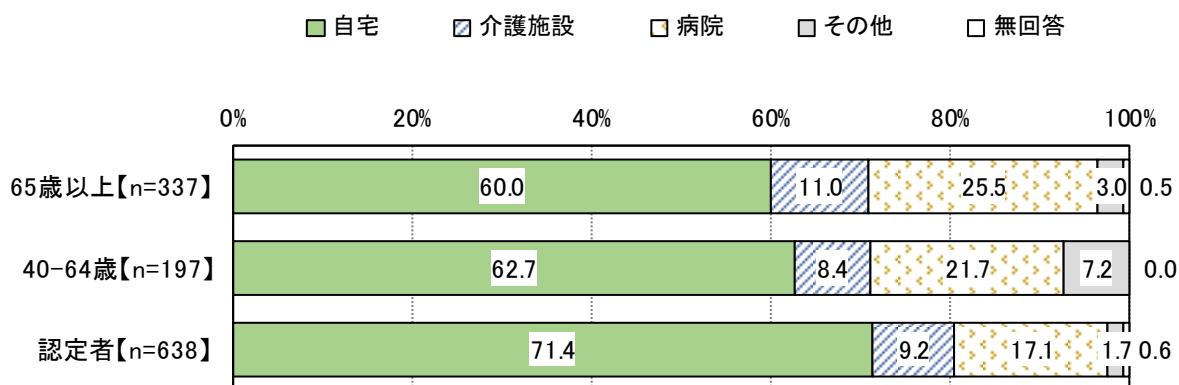
【要点 13】新規 人生の最期をどこで迎えたいか考えているか尋ねたところ、「はい」と回答したのは、65歳一般高齢者では59.3%、要支援・要介護認定者では54.2%で過半数を占めています。40～64歳では42.1%で「いいえ」が過半数を占めています。人生の最期をどこで迎えたいと思うかについては、すべての調査対象で「自宅」が最も多く、いずれも過半数を占めています。その一方で、いずれの調査対象においても、「病院」が約20%、介護施設が約10%となっており、一定の希望があることがわかります。

【同居者の介護について】《65歳以上・認定者・40～64歳》

・人生の最期をどこで迎えたいか考えているか

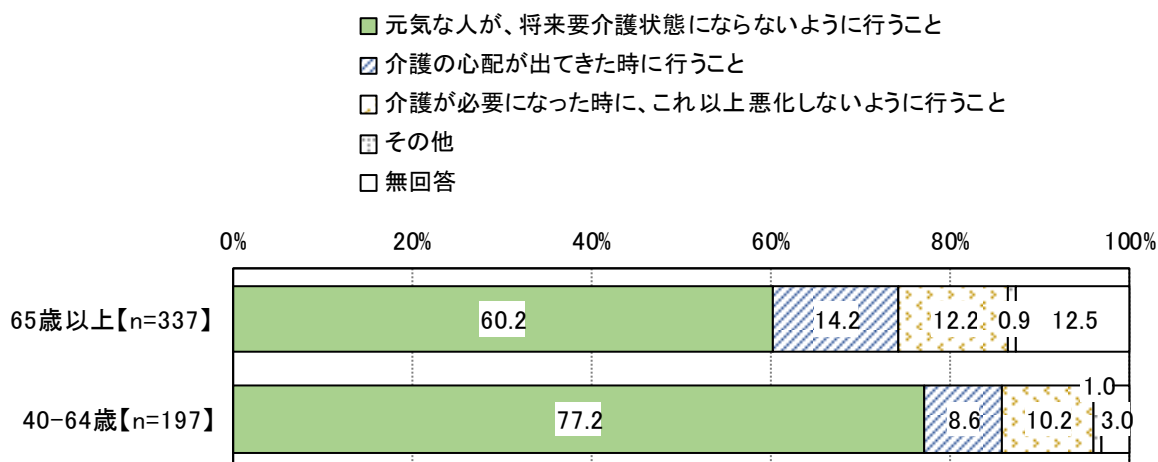


・人生の最期をどこで迎えたいと思うか



【要点 14】**新規** 介護予防のイメージについて、65 歳以上と 40～64 歳ともに「元気な人が、将来要介護状態にならないように行うこと」が過半数を占めています。また、65 歳以上一般高齢者が利用したいと思う介護予防の教室等は、運動教室が 41.5%で最も多く、以下「転倒予防教室」が 26.1%、「認知症予防教室」が 24.6%、「健康教室」が 22.6%、「健康相談」が 13.4%などとなっています。

【介護予防のイメージ】《65 歳以上・40～64 歳》



【利用したいと思う介護予防の教室等】《65 歳以上》

